ポスター発表

2025年11月1日(土) 13:00 ~ 13:50 | 会場(金森産業ホール)
[P1] ポスター発表 #1

[P1-01] 建物ポリゴン図郭処理の精度と所要時間の相対比較

*齊藤 涼馬[1]、斎藤 陽生[1]、山下 順也[1]、薄井 宏行[2] (1. 千葉工業大学大学院、2. 千葉工業大学)

キーワード：図郭、建物ポリゴン、結合

都市計画において，建物の平面形状を表すポリゴンデータ（以降，「建物ポリゴン」と記す．）は基本的なGISデータの一つである．建物ポリゴンが図郭と重なると，複数のポリゴンに分割され，建物ポリゴンの幾何学的整合性や属性情報の一貫性は失われてしまう．本研究では，東京23区内の建物ポリゴン（1996年）を対象に，図郭に沿って複数に分割されたポリゴンを一つの建物ポリゴンとして結合する（図郭処理）方法を複数検討し，図郭処理の精度と所要時間の相対比較を行った．具体的には，(a)建物ポリゴンに対してバッファ処理を行い抽出する方法，(b)図郭線を縦横に分割する方法，(c)建物ポリゴンを線に変換する方法の三つである．いずれの図郭処理方法も，図郭に沿って分割されたポリゴンの抽出，ポリゴンの属性結合，幾何補正で構成され，QGISのモデルデザイナー機能を用いてツールボックス化した．

©一般社団法人地理情報システム学会